

課題対応取組報告書

【共通】

| | |
|-----|----------------|
| 名称 | 住吉区西地域包括支援センター |
| 提出日 | 令和7年6月6日 |

| | | |
|--|---|---|
| カテゴリー (※主なものをひとつチェック) | <input checked="" type="checkbox"/> 地域や専門職とのつながり等 <input type="checkbox"/> 認知症高齢者等の支援 <input type="checkbox"/> その他 () | <input type="checkbox"/> 社会資源の創設 (居場所づくり等) <input type="checkbox"/> 自立支援・介護予防・健康づくり等 |
| 活動テーマ | 早期発見・早期対応を可能にする地域における意図的なつながりづくり | |
| 地域ケア会議から 見えてきた課題 | 【生活課題が重度化した認知症高齢者及び孤立する認知症高齢者の権利擁護支援】 認知症が悪化し金銭管理が困難になったり、近隣住民への迷惑行為が深刻になってから相談が寄せられる為、支援に入るまで時間を要する(速やかな支援介入が困難)。 単身高齢者(キーパーソン不在)が抱える生活課題解決のための支援者や制度が不足している。 ・地域包括支援センターの認知度の向上と相談しやすい関係づくりが必要。 ・地域住民へ認知症高齢者の理解促進のための継続的な啓発活動が必要。 ・地域住民が身近な地域で集える場を創設し、自立支援・重度化防止に向けた取組みを進めるとともに、早期発見・早期対応を可能にする地域づくりが必要。 | |
| 対象 | 地域住民(住宅居住者中心)、地域関係者(地域活動協議会、地域振興町会等)、関係機関 | |
| 地域特性 | 公的施設や商業施設、医療機関等も多く存在し交通機関の利便性も良く生活関連施設も充実している。一方で市営住宅等の集合集宅が点在しており居住エリアによって高齢化率が高くなったり、情報格差が生じたりする恐れがあることも懸念される。 | |
| 活動目標 | 【認知症高齢者の理解促進に向けた啓発活動を継続し、生活課題が重度化する前に相談支援につなぎ、専門職だけでなく地域とのつながりづくりなどを含む広義の伴走支援を可能にする地域ネットワークづくりを進める】 ①地域住民と地域ネットワークづくりの必要性や活動目的を共有する。 ②見えてきた実状を踏まえ、地域住民や地域の関係機関と連携した活動を行う。 ③活動の必要性の理解が広がり、活動の継続性や進展がみられる。 | |
| 活動内容 (具体的取組) | ①地域住民と地域ネットワークづくりの必要性や活動目的を共有する。 ・地域のニーズや要望に加え、地域診断を基に重点的に連携する地域を選定。 ・前年度開催した地域関係会議も参考に、地域関係者と活動の必要性や目的を共有する機会を持つ。 (1)地域役員との懇談会(出張相談会の企画提案) (2)南住吉地域ネットワーク交流会「地域で共にくらす知恵(防災の取り組み)」 ②見えてきた実状を踏まえ、地域住民や地域の関係機関と連携した活動を行う。 地域住民と見えてきた実状や課題の方向性を共有したうえで、支援関係者と連携し地域における認知症高齢者の理解促進、自立支援・重度化防止に向けた取組を行うとともに、地域包括支援センターの認知度の向上を図る。 (1)第1回出張相談会(認知症地域支援推進員と連携「もっと知りたい！認知症のこと」) (2)第2回出張相談会(理学療法士会と連携「フレイル予防」) (3)第3回出張相談会(福祉用具事業所と連携「介護保険制度・サービスについて」) (4)第4回出張相談会(弁護士会と連携「悪徳商法から身を守る方法と終活について」) ③活動の必要性の理解が広がり、活動の継続性や進展がみられる。 地域ネットワークづくりを進めていくことの意義や実践、効果を地域での会合、学習会等を通じて地域住民にフィードバックし、早期の把握・早期の対応及び伴走支援を可能にする地域づくりにつなげていく。 (1)南住吉地域ネットワーク交流会「地域で共にくらす知恵(地域ケア会議から見えてきた課題のまとめ、成年後見制度)」 (2)墨江地域における取組み報告・見えてきた課題のまとめ「地域で支えるつながりづくり」 (3)清水丘地域高齢者支援ネットワーク交流会「相談支援状況及び取り組み事例」 | |
| 成果 (根拠となる資料等があれば添付すること) | 認知症が進行し、日常生活に課題があるキーパーソン不在の単身高齢者の支援が必要となるなかで、地域住民を中心に地域関係者とその関係機関が連携し、地域ネットワークづくりを進めることができた。出張相談会や交流会は他機関と連携し、権利擁護を含む認知症高齢者支援、自立支援・重度化防止に向けた取組み、地域包括支援センター・ランチ認知度の向上と一体的に取組むことができた。出張相談会のアンケート結果からは地域包括支援センター・ランチを知る機会となったと回答した割合が約9割と成果が得られた。交流会のアンケート結果からは「地域での活動を行うときに役に立つと思う」という回答を全ての参加者から得られたので、一定の効果があつたと考えられる。 | |
| 今後の課題 | 引き続き地域における認知症の理解促進と高齢者の孤立孤独の防止に対する取組みを進めることが必要である。個別支援から地域課題の解決を目指した地域づくりを進めるとともに、地域関係者が興味や関心を持つ内容から活動をはじめ、地域ネットワークの構築を進めていきたい。地域に向けてアウトリーチをすることにより、これまでつながりが薄かった関係者と新たに関係を作っていくことが、地域活動の持続性にもつながっていくと考える。 | |
| ※以下は、区運営協議会事務局にて記入 | | |
| 区地域包括支援センター 運営協議会開催日 | 令和7年7月24日(木) | |
| 専門性等の該当 (※該当個数は問わない) | <input checked="" type="checkbox"/> 地域性 <input checked="" type="checkbox"/> 継続性 <input checked="" type="checkbox"/> 浸透性・拡張性 <input checked="" type="checkbox"/> 専門性 <input checked="" type="checkbox"/> 独自性 | |
| 評価できる項目(特性) についてのコメント * 今後の取組継続に向けて、区地域包括支援センター運営協議会からの意見等を記載。 | ・高齢化率の高い地域での出張相談は効果的だと感じた。また、出張相談において、関心の高いテーマ(認知症など)の講話を一緒に行うことで自立支援、重度化予防もかねて、地域包括支援センターの認知向上ができています。 | |